



英霊 800 余柱の冥福を祈る

200 人が出席し、町戦没者追悼式



出席者全員で英霊の御霊を慰めました

町戦没者追悼式は8月7日、町体験交流館学びいにて執り行われました。式には遺族会会員や来賓など約200人が出席、国歌斉唱の後、黙とうをささげ、先の大戦で犠牲になった800余柱の冥福を祈りました。

津金町長が「わたしたちが物心ともに豊かな生活を送れるのは、犠牲者の皆さんの礎のおかげ。尊い犠牲の上に築かれた現在の平和と繁栄を維持し、悲惨な戦争から得た教訓と平和の尊さを伝えていきます」と式辞を述べた後、山口靖明会津保健福祉事務所長、関澤和人議長が追悼の言葉を述べました。

納税への取り組みをたたえ

八千代納税貯蓄組合へ感謝状贈呈



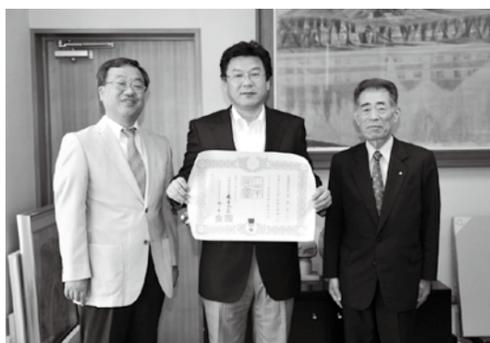
右から高橋部長、森合局長、常盤連合会長、阿部組合長、津金町長

21年度の優良納税貯蓄組合への感謝状贈呈式は8月5日、町役場で開かれました。県会津地方振興局の森合正典振興局長、高橋純一県税部長らが来庁し、八千代納税貯蓄組合の阿部浩一組合長に感謝状を手渡しました。

阿部組合長は「当組合は、納税だけにとどまらず、地域に貢献する共同体としての役割も担って活動してきました。いろいろな問題などありますが、可能な限り続けたい」と述べました。式の終了後、同組合の会員らは、八千代地区の公民館に会場を移し、祝賀会を開いて会員同士の親睦を深めました。

遠藤さんが紺綬褒章を受章

多額の寄付、功績をたたえられる



左から塚原部長、遠藤さん、津金町長

「野口英世博士のふるさと猪苗代応援寄付金」として、昨年町に800万円の寄付をした千葉県在住、会社経営遠藤昭二さん(47)＝西高森出身＝が紺綬褒章を受章し8月12日、町役場で伝達式が挙行されました。

伝達式では、塚原啓史県会津地方振興局企画商工部長から褒章が手渡され、遠藤さんは「立派な章をいただき光栄です」と感謝を述べました。

伝達式終了後、遠藤さんは今年度も町へ1,000万円を寄付。津金町長に目録を手渡しました。

中心市街地の活性化を要請

まちづくり猪苗代について報告書



報告書を手渡す長谷川委員長(右)と津金町長(左)

町が出資・出援している、第三セクターなどの外郭団体の運営状況について、点検、評価をする「公社等外郭団体点検評価委員会(長谷川一委員長)。(株)まちづくり猪苗代の点検評価を終え、8月6日、町がとるべき措置について町長に報告書を提出しました。報告には、「中心市街地を活性化するための機関なので、まちづくりの中核会社としての使命を果たすこと。多方面への事業拡大、新たな経営戦略の実践、固定負債の改善や繰越損失の早期解消に努力する必要がある」などが示され、津金町長は「報告を真摯に受け止め、改善に努める」と話しました。

町の代表という誇りを胸に

市町村対抗軟式野球の選手が決定



背後にそびえる磐梯山のように力強いプレーを期待します

県内各市町村の代表チームが熱戦を繰り広げる、第3回市町村対抗福島県軟式野球大会は9月26日、福島市の県営あづま球場で開幕します。同大会に出場する、猪苗代選抜チームのメンバーが決定しました。町内の野球チームから選抜された26人とふるさと選手2人を含む合計28人。この28人が大会に臨みます。

昨年は、1回戦で浪江町チームと対戦。1-2で敗退しましたが、優勝チームを相手に接戦を演じた実力はまぎれもなく本物です。今年こそは練習の成果を発揮し、優勝を目指して頑張ってください。

鉄人たちが己の限界に挑戦

会津の雄大な自然を舞台に大激走



40km先の会津大を目指してバイクのスタート

第11回うつくしまトライアスロン in あいづは8月23日、猪苗代湖の天神浜でスイム(1.5km)、天神浜から会津大までのバイク(40km)、同大周辺を走るラン(10km)のオリンピックディスタンスで開催され、全国から出場した397人が、自らの限界に挑戦しました。開会式で「風光明媚なこの会津の地を、全力で走り抜きます」と力強く宣誓した前後賞選手(東京海洋大3年:酸川野出身)は、「生まれ育った故郷で、家族や親せきの声援を受けながら、練習の成果を発揮することが出来て幸せです。一生忘れない思い出になりました」とレースの感想を述べました。

